大阪府立天王寺高等学校

令和２年度　第３回　学校運営協議会　記録

日時：令和３年１月 23 日（土）11：00～11：30
場所：校長室
出席者：【委員】山東　功（会長）、浮邉　亜紀子（副会長）、貴志　泰正、堤　将洋、山下　由美子
【事務局】吉岡　宏（校長）、高江洲　良昌（教頭）、石田　智恵(事務長)、 内堀　晴則（首席）
井上　孝介（SSH 主担）、濱口　真太朗（ＧＬＨＳ担当）、佐藤　直人（記録）

１．開会

２．会長挨拶
緊急事態宣言の発令されているなか、開催ありがとうございます。先生方からお話をお聞きし、委員の方からご意見頂戴したいと思います。よろしくおねがいします。

３．校長挨拶
オンラインでの開催もあり得ましたが、直接お会いしてご教示いただけるほうがいいと思いましてこの形で開催させていただきました。今回の会議で、来年度の中期目標の承認というところまでお願いしたいと思います。

４．協議
（１）令和２年度学校経営計画及び学校評価について
A. 令和２年度学校経営計画及び学校評価
「本年度の取り組み内容及び自己評価」について、資料に基づき校長より説明。
コロナウイルス感染症の影響で HP のリニューアルは後ろ倒しに、又、海外派遣等の活動についてはオンラインでの交流に変更して実施予定。時間外労働は大幅に減少するはずだが、さほど減っていないことが課題である。
B. 令和３年度学校経営計画及び学校評価
・「チーム天王寺」…実際、職員室でも話し合ったり、支えあったりしている姿が見える。
・中期的目標
オンラインを含む様々な活動や広域研修を通して「突出人材」を育成し、SSH 指定校として大阪の「拠点校」として SSH の成果「普及」に努める。
C. 学校教育自己診断評価
・生徒からの評価　昨年度より肯定的な評価の数値が下がったものについて
項目５「他校との交流」…コロナの状況で外部との交流が減っているため、やむを得ない。
項目 12「指導に納得」…コロナの状況下での修学旅行で、感染症対策のため厳しい指導をする機会が多く、生徒のしたいことと食い違うこともあったと思われる。
項目 26「清潔」…学校全体で取り組むべきこととして取り組んでいる。トイレの改修ができていない

ことは大きな要因である。

・教職員の評価では、「分掌、学年間の連携が円滑」という項目でポイントが大きく上昇。「ちまた力」をあげましょうという意識づけが機能している。

D.授業評価アンケート

項目８・９「興味関心、知識技能」が身についたという項目が 3.49 と非常に高い満足度を得られた。

E.授業力向上に向けての取り組み

・「２．授業見学」…６月からの授業であったが、若手教員の頑張りもあり、教員一人当たり平均 10.4 回という数（会議の時点で 10.7）になり、年度末には去年(6.6)の倍近くになる勢いである。

・「３．教員向け外部研修」「４学校等視察等」「５．他校からの視察・見学」…コロナの状況で外部研修は実施断念となっているケースが多い。しかし、学校視察や研究交流などもオンラインなどを活用しながらリモートで実施した。　筑波大学付属駒場高等学校の研究協議への参加等の学校視察やインドネシア科学技術高校の５００名の生徒との研究交流は状況が厳しい中でもでき、今後へとつながる大きな一歩となった。

F.近畿大会以上の成績で表彰された生徒

このコロナ禍の苦しい状況下でもチャレンジしてくれている生徒たちがいて、頼もしい。

G.GLHS の取り組み

・高大連携…中止になる行事もある中、感染対策を講じた上で大阪大学のツアーを実施していただいた。

・10 校合同発表会で生徒は会場での課題研究の発表を楽しみにしていたがオンラインでの実施となった。校内でパブリックビューの場を設け、仲間が見守る中で発表を行う予定である。次年度、校内で全校生徒の前で発表できるような場を設けたいと考えている。

・１年生の創知（サイエンスイングリッシュ）では阪大の留学生を招き、英語でのプレゼン（ポスターセッション）に対して、質疑応答の場を設けた。生徒は緊張感をもちながら発表していた。

H.SSH の取り組み

・今年度は基礎枠４期４年目。

・天高アカデメイア　Zoom 開催。はじめは生徒も慣れていなかったが２、３回で生徒も慣れ、積極的に参加し、対面の実施と同様質問もできるようになった。

・医系ライフ　コロナで実施も大変難しい状況の中、病院での実習を実施していただけた。

・各教科の研究部を活性化させたい。高校の研究部間で会議をさせてみたりしている。Zoom のおかげで「研究交流」ができている。部活動なので練習試合という名のもとで交流を深めている。

・物理オリンピックで日本代表候補として本校と北野の生徒各１名にオリンピックで銀メダルを取った卒業生による勉強会を実施している。

・オンラインによって他校との交流が活発化。気軽にできるようになってきた。プラスになっている。多人数３００人など。数式がオンラインだと見やすいなどということも。ちょっとずつ進化を遂げている。

・府下の高校の研究部を集めて「研究部会議」を予定していたが緊急事態宣言の影響を受け開催が危ぶまれている。

・深い学び…大学の先生はプロフェッショナル。単なる会話ではなく、そのような先生との対話でこそ深い学びができるのではないか。

・創知Ⅰ　１年生でクリティカルシンキング。
・創知Ⅱ　コア５(物理、化学、生物、数学、文系)とインテグ(インテグラル)という分野に分けて実施した。今年から、先生方の配置を変えた。(去年は一人で３班だったが、今年は２人で６班。)
※令和３年度学校経営計画は、委員の皆様により承認された。

（２）質疑応答及び意見交換

委員：コロナの状況下で、先生方にがんばってやっていただいた。世界的な評価としてはコロナで大変だというものだが、いい面もあったはず。生徒たちがオンラインの実習として高校時代を使えたというのは大切なことだったのではないか。個人個人がいままで通りの考え方ではいけない。

委員：コロナ対策のための設備はどうか。飛沫防止の衝立など。

事務局：授業については、最初のころは生徒同士に対話させるような形態も恐る恐るだったが、府のガイドラインに従って進めていて、問題はない。

事務局：体育館など校内のある場所で実施していることを配信するようなシステムがあればよいのだが。教室の通信環境は府の工事の準備を進めている。

委員：後押しができればと考えている。

委員：卒業式は？

事務局：府のガイドラインに従って。３年生と１家庭１人の参加。国歌校歌は清聴。体育館で実施予定。

委員：大変な状況の中、先生方の苦労は想像にあまりある。敬意を表したい。いままでと違った取り組みの進め方をされたと思う。若い先生も多い中、年配の先生方に苦労はなかったか。研修、情報共有の在り方はどうか。取り組みはどうか。

事務局：遠隔授業のとき、教科ごとで持続可能なスタイルを考えた。ベテランの先生が考えて、若手の先生が実際に動くという姿が見られた。相談しながら各教科工夫しながら進めている。まだ遠隔授業の WEB ページも残していて、現在もそれを活用している教科がある。決断する場面が多く、教員同士が議論する機会が増え個々の教員が様々な力を身につけた。

委員：遠隔授業の具体的な仕方は何か府から情報提示があったか。

事務局：府から動画のアップ方法などは通知があったが、研修はなく、現場の先生方がすばやく動き、技術を磨き、どんどん洗練されたものを提示していった。

委員：データの配信となると、情報の流出などが懸念されるが、それについてはどうか。

事務局：顔と名前を同時に up しない決まりなどが府にはあり、それに従って行っている。

委員：ツールの制限は？

事務局：特にはない。教材の著作権の問題等は気を付けないといけない。

委員：未知な状況に柔軟に対応されていることが分かりました。

委員：「チーム天王寺」という天高のやりかたが発揮されている。このシステムを続けていただきたい。

委員：PTA の活動として今後オンラインの活用が必要であると考えている。

委員：天高では、授業をほんとうの実力をつける方針でこれまで進めてきたので、共通テストに対してもばたばたせずにできたという話も聞いている。質問が二つ。一つめ。学校教育自己診断で教職員の「会議が情報交換と課題検討の場として有効に機能している」「分掌・学年間の連携が円滑に行われている」という項目の評価が高まっており、「チーム天王寺」を表しているが、これはなぜか？

これがよかった、こんな取り組みがよかった、というものはあるか？

事務局：コロナによる一斉休校のときの連携はすごかった。先生方の使命感や話し合わざるをえない状況。それぞれの先生が、自分たちの話し合いが結果に結びつくのだという意識と達成感。そのなかで当事者意識が高まった。これらが高評価につながったのではないか。

事務局：一番大変な時期に、学校の方向性を決める会議に教科代表が参加し、各教科に情報をおろしていた。若手の先生が教科代表をしていることもあって、まわりの経験豊富な教員が協力するという雰囲気が自然とできた。今年は自分が考え、かかわったことが形になるということを多くの教員が体験できた。又、その記録を校長がメールで全教員に配信。その日に直面した課題に対して議論を重ね、出来上がった成果を皆で共有できた時間となった。

事務局：遠隔授業の研究班を組織し、彼らが先頭に立って活躍してくれた。

委員：校長先生、教頭先生のマネジメントがすばらしい。三重○。

委員：質問の二つめ。SSH「創知」でのクリティカルシンキングはコミュニケーションの質を上げる意味ですごい取り組みだと思うが、生徒の反応はどうか？

事務局：クリティカルシンキングについては、「創知Ⅰ」で基礎的な力をつける。その実践の場として天高アカデメイアがある。天高のあらゆる学習でクリティカルシンキングが求められる。「創知Ⅱ」ではディベートにも取り組む。けんかではなくエビデンスをもって論じる力を身につける。そして、質問する力、勇気が育っていく。講演でも質問する生徒が多く、効果が発揮されている。

委員：それはまさに深い学びであり、新学習指導要領の先取り、対応ができている。共通テストも全ての教科が国語の力を問うものになっている。

事務局：去年まで、中学校での説明会でも、「天高はすでに「対話的で主体的で深い学び」をやっている。国が追い付いてきた」、などと言っていた。

委員：経営計画で「全人教育」をうたった点は、すばらしいなと思った。

委員：コロナにり患した生徒に関して、学校のなかで誹謗中傷があったりしなかったか？

事務局：ない。生徒には「誰がということを詮索するのではなく、その人を、仲間を思いやる気持ちを持ってほしい」と訴えており、それが理解できない生徒ではない。

委員：みんなを思いやる気持ちを育てる。それこそ「全人的な教育」だと思う。

委員：保健部としての取り組みはあるか？

事務局：感染予防対策をその都度、生徒に情報発信している。現在は、換気のプリントを配布して具体的に指示している。

委員：北野高校をはじめ GLHS10 校との交流もあるとのことだが、中心になる人物が天高生であればうれしく思う。

事務局：合同海外研修に参加した他校の生徒が「天高っていいですね、先生に質問するという場が普通にある。そこがうらやましい。」と言ってくれた。それは誇り。視察で来られる先生方も「天王寺は違いますね」と言われる。１０年２０年たって、間違っていなかったと思えるようなそういう学校でありたい。

委員：卒業生は天高が好きで好きでたまらない。卒業生も使いながら、野人の天王寺として他校とも切磋琢磨し、良きところを継承しながら歩んでいけると良い。

委員：天王寺は先生が一丸となっている。そこも将来につなげていただきたい。